

【熊本県賞】

水の可能性

熊本県 熊本信愛女学院中学校 三年 狩野 未羽

私たちの生活において、水は最も影響力の高いものの一つです。料理や風呂、洗濯などに必要とされ、水力発電にも用いられます。また川の水だけでなく、海の水においても同じような事が言えます。最近、注目されている波力発電。生命のサイクルを回し、何より水を循環させるはたらきも海が大部分を担っています。

そんな水の中でも私が特に興味深かったはたらきは、さきほど取り上げた波力発電です。再生可能エネルギーのひとつであり、波の大きなエネルギーをいかした発電方法として、研究が進められています。波力発電では主に四つの方法があり、それぞれの利点を生かしながら発電しています。石油、石炭と違い、枯渇の心配がなく、太陽エネルギーの約二十倍、風力発電の約五倍の発電ができると言われています。また、今現在行われている太陽光、風力発電と比べて、発電力がとても安定しているため、天候によって左右される心配もありません。

こんなにも優れた波力発電が未だ、実用化されないのか。それには理由があります。

まず、当然海上に設置される発電所ですので陸上に比べて時間も費用も多くなっています。また、大きすぎる波エネルギーを受け続けたり、腐食や、貝などが付着したりするため、点検やメンテナンスに費用がかかってしまいます。同じ水でも淡水の水力発電と海水の波力発電は、かかる費用も違うようです。つぎに、台風や津波などの災害に対する安全性です。波の直撃をさける事が出来ない波力発電所への安全性の配慮は難しく、より費用を引き上げる一因にもなっています。そして、漁業との協力。波がある程度活発な所とは、たくさんの漁船が行き来する場所、漁港。漁港に波力発電所を設置することで悪影響が出ないともかぎらないため、未だに実用することが

難しいのです。

我が国では波力発電の研究において世界トップクラスでした。しかし、石油価格の高騰が落ちつき、資金を得る事が難しくなった今、欧州、米国での一部実用化に対して日本は実用化まで至らないという状況です。日本の技術力を駆使して実用化を目指してほしいです。

このように、水にはとても大きなメリットがたくさんあります。ですが私たちはまだ水の全てを知り、使いこなす事が出来ていないと感じます。私たち生命が生きるために必要不可欠である水は多くの恵みを川、海、そして雨となつて与えてくれています。ですが、ときに水は津波や大雨、浸水、土砂崩れなどへと姿、形を変えて私たちに危害をもたらすこともあります。みなさんは水と向き合い、使い切れていますか？ はるか昔の人類は我々現代人よりもずっと上手く水とつき合ってきたのではないのでしょうか？水を使いこなすにはまず水についてとことん知る必要があります。それはとても難しく、そしておもしろい事です。私も実際、水について調べて、新たな発見をすることができました。水を使いこなすことができた社会は今よりもずっと暮らしやすいかもしれません。努力を惜しまずまずは水について考えてみませんか？